

避難所が、テイサービスに(´_`)

祖父江さんからの支援報告です。

支援に出させていただきます、ありがとうございます。

こちらは、地域の電気が復旧したこともあり、昼間は避難所から自宅に戻られる方がふえています。私は1日避難所を回り、高齢者さん、乳児、風邪の方の健康状態を見ました。午前はナース隊7人でしたが、午後は医師と一緒にだったので治療ができました。特徴的なこととしては、高血圧症と風邪が多いことです。皆さん悲壮感はなく、前向きなばかりです。

ご主人を津波で亡くされた方は、その時の様子を一気に話されました。津波の怖さを実感し、言葉もかけられません。それでも、息子二人と人生やり直します。と……。最後には、滋賀からの支援に感謝し労いの言葉をかけてくださいました。辛い瞬間です。

二ヶ月のベビーが順調に育っていてくれて安心して癒される場面もありました。立川相互病院のトレーナーさんは、とっても明るく楽しい66歳。脳梗塞後で足がパンパンに浮腫しているところを発見。

これはいかんと思いつトレーナーさんの指導のもと、足の体操と脳トレーニングを実施、避難所がにわかデイケアになりました。みなさんいい笑顔を見せてくれました。

壮絶なお話の数々

■武智さん iPhone から

午後からチームを組み直して天真小学校に訪問。現在約千人が体育館と校舎に別れて避難している。多賀城市、塩釜市から被災者の方々。先ほどの避難所もそうだったが、電気、通信、石油が確保出来るようになった事で昨日、今日、だいぶ避難所から引き上げている。しかし、まだ個人では灯油やガソリンは緊急車両優先で購入し難い。家が流された人、車が流された人、家が泥に使った人、と様々だが、場所によって被害を殆ど受けていない人も地区によってはっきり分かれている。被害の大きかった七北田川の川下、家が流されていない川上のほう、小高い地域。

室内犬を持ち込んでいる人もいて、プライバシーの確保されない空間で、さぞかしお互いに譲り合って我慢しあっている。長期間に渡る大変さ。反面、助け合っている暖かさ。を感じる。一日、救急車のサイレンとヘリコプターの音が行く先々に聞こえる。気軽に色々と話をして下さったが、高齢の方々の東北訛りはさすがに分かりにくい。話の内容が深刻なだけに必至で聞いたのだが、頷くのみ…壮絶なお話の数々。

- 高齢の女性の方

「津波が来た時、何故か体が動けなくてもう仕方ない。と覚悟を決めたが、近所の方が2人がかりで私を家から引きずり出した後、家の中が波に浸かった。あの時のご近所さんのおかげでこうやって生きている。」

もう1人高齢の女性の方の話。

「必至で波から逃げて来たが、先に逃げたはずの夫が何故か家に引き返した。どうも自分を助けようと引き返した様なのだが…後で自宅の庭で夫の遺体を息子が見つけた。何故あの時引き返してしまったのか？」

胸が詰まるような話ばかり…

第三陣「避難所」訪問報告



各県災害対策本部、警察庁、消防庁の資料などを総合して作成。関東各都県の避難者には福島原発の放射能漏れ事故の避難者を含みます。

新聞赤旗 3/24 付より転載

■塚本携帯メール 2011/03/24

天真小学校避難所の診療はまるで野戦病院の様相でした。インフルエンザはまだ少ないですが高熱の方が多くとてもしんどそうでした。寒さが重なると爆発的に増えそうです。体育館は満杯で浮腫が見られ救急搬送した人、土気色の顔で余震の度身体が硬直するお年寄りなど一人一人に援助が必要です。中学生や高校生がきびきび手伝っていたのが救いです。

■2011/03/24 7:56

本日2日目の避難所回りを開始します。今朝は炊き出しが足らず、チキンラーメンを自炊。4人で一つのなべをつついて団結？を固めました。全員元気です。昨日も今日もよい天気です。